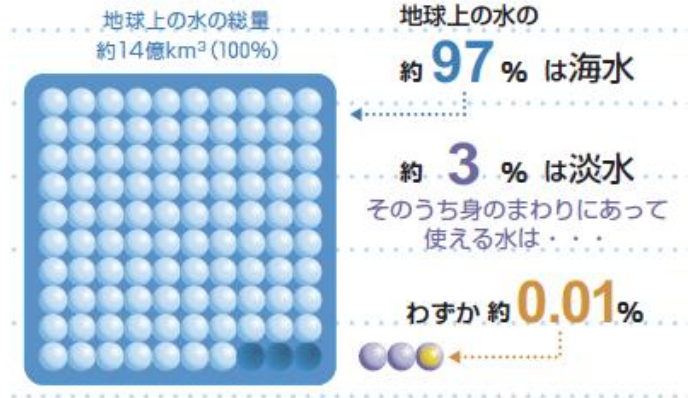


大切な水

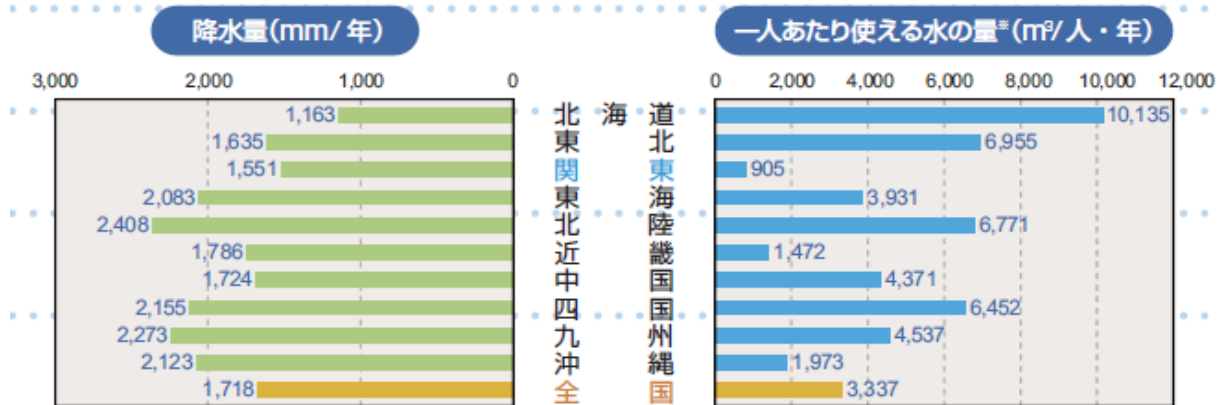
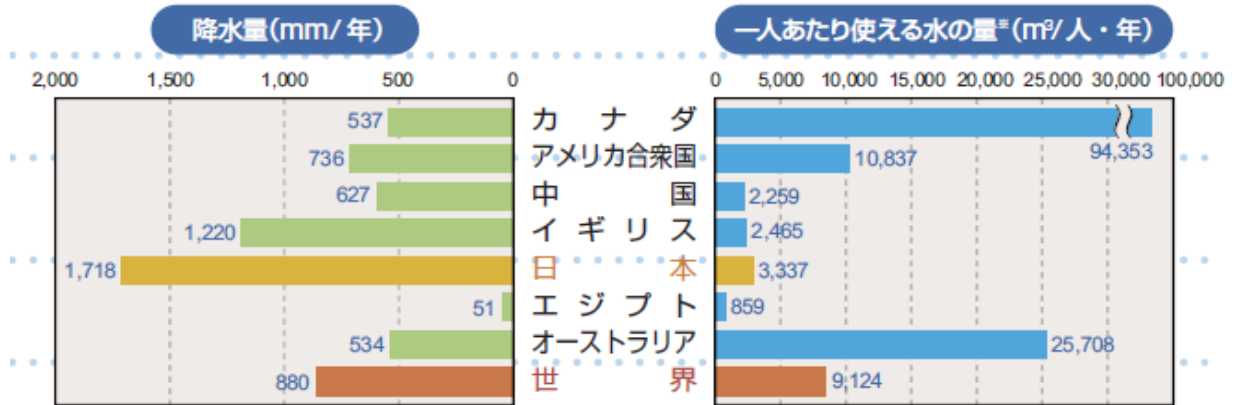
年 組 番
名前

私たちをとりまく水の状況について、考えてみましょう。

地球には、およそ 14 億立方 km の水があります。そのうち 97 パーセントが海水で、残り 3 パーセントが淡水(飲み水として利用できる水)です。しかし、そのほとんどが南極や北極の雪や氷、深いところにある地下水で、利用することができません。身近に利用できる川や湖の水は全体の 0.01 パーセントしかありません。



地球にある水は、たくさんあるようにみえて、じつは私たちが本当に使える水はほんのわずかで、川や湖の水はとても大切です。



※使える水の量 降水量から蒸発などによって失われる量を引いた水の量
国土交通省 平成18年版「日本の水資源」から作成

【日本の水】

日本は世界の中でも雨の多い国です。しかし、^{ちけいてき}地形的に山が多く、^{みじか}川が短いため、一人あたり使える水の^{りょう}量は世界の平均よりも少なくなります。

【茨城や関東地方の水】

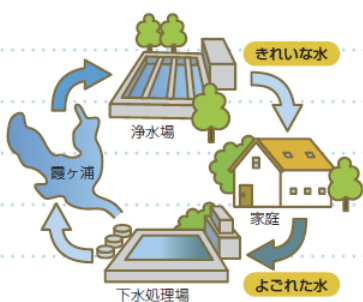
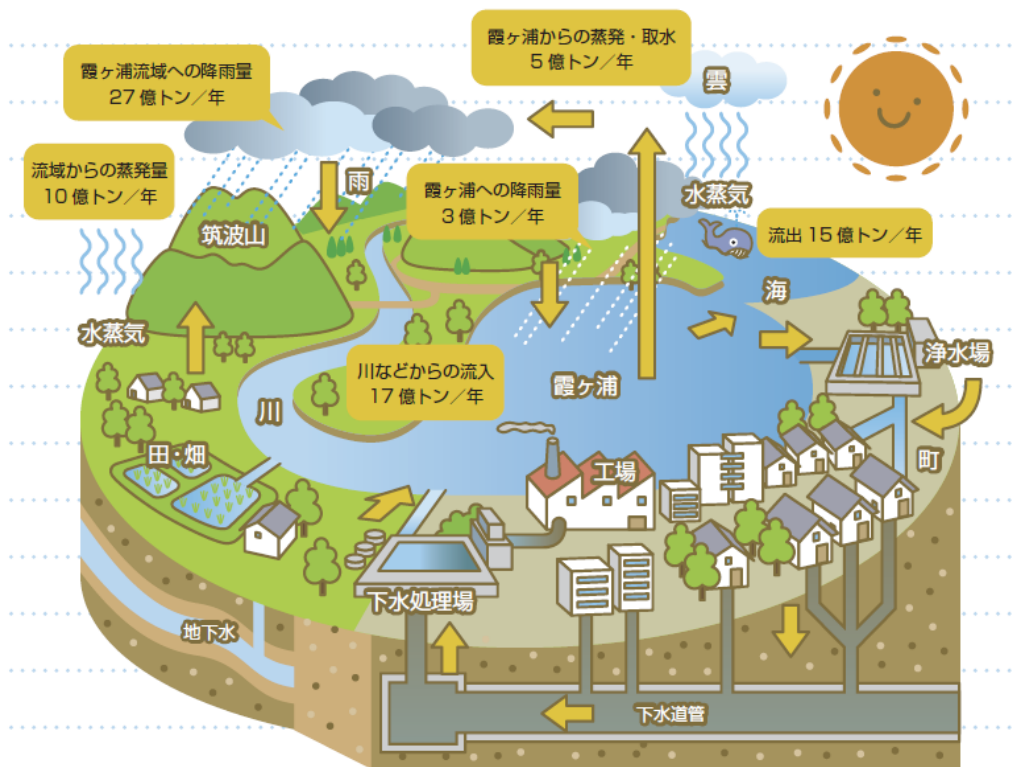
日本の中でも、^{かんとうちほう}関東地方は特に人口が^{しゅうちゅう}集中しているために一人あたりが使える水の量は^{ぜんこくへいきん}全国平均よりずっと少なくなります。

【水の循環】

^{ちきゅうじょう}地球上の水のほとんどは海にあります。海の水は^{たいよう}太陽の熱で^{ねつ}温められて^{すいじょうき}水蒸気となり、雲をつくります。雲は雨をふらせ、雨は生き物に水を与え、^{ちやう}地下にしみこみます。一方、^{せいかつ}生活や^{さんぎょう}産業に使われて^{げすい}すてられた水も、^{しよりじょう}下水処理場や川をとってふたたび海に流れこみます。このように、水は海と空と陸の間を回っています。これを「^{じゅんかん}水の循環」と呼んでいます。

霞ヶ浦からの^{じょうはつ}蒸発・取水 3億トン/年

霞ヶ浦流域への^{こうりょう}降雨量 27億トン/年



このように使える水の^{りょう}量は、雨などの^{てんこう}天候によりかわります。また、霞ヶ浦の水は、左のように^{じゅんかん}循環（まわっている）しています。^{かぎ}限られた^{しげん}水資源を大切に使う^{どりよく}努力が^{ひつよう}必要です。